

Environmental Health and Preventive Medicine (in press)

Association between PM2.5 and primary care visits due to asthma attack in Japan: relation to Beijing's air pollution episode in January 2013.

Yamazaki S, Shima M, Yoda Y, Oka K, Kurosaka F, Shimizu S, Takahashi H, Nakatani Y, Nishikawa J, Fujiwara K, Mizumori Y, Mogami A, Yamada T, Yamamoto N.

2013年1月に北京で高濃度の大気汚染（PM2.5）が観測され、わが国への越境汚染と健康影響の懸念があった。

本研究は、姫路市の夜間急病診療所にぜん息による発作により受診した患者を対象にケース・クロスオーバー法を用いてぜん息による受診とPM2.5およびその他大気汚染濃度、気象条件との関連性を検討した。PM2.5の濃度は前年比1.2倍程度の濃度であったが、PM2.5とぜん息による受診との関連性は認められなかった。

なお、オゾン濃度が高まるとぜん息による受診が多くなるという関連性は先行研究を支持した。